



# タウンミーティングを開催しました！

全6地区のコミュニティセンターにて、  
策定中の第6次総合計画のご紹介や東浦町の現況についてご説明致しました！

～開催の様子～

**タウンミーティングにも女性の参加を促す工夫をしたほうがいいのでは？**



7/21(土) 緒川地区

**人口減少・高齢化で東浦はどうなるのかデータをしっかり分析してほしい！**



7/21(土) 緒川新田地区

**自分事としてのまちづくりのやり方が分からない住民にきっかけほしい！**



7/22(日) 生路地区



7/22(日) 石浜地区



7/29(日) 藤江地区



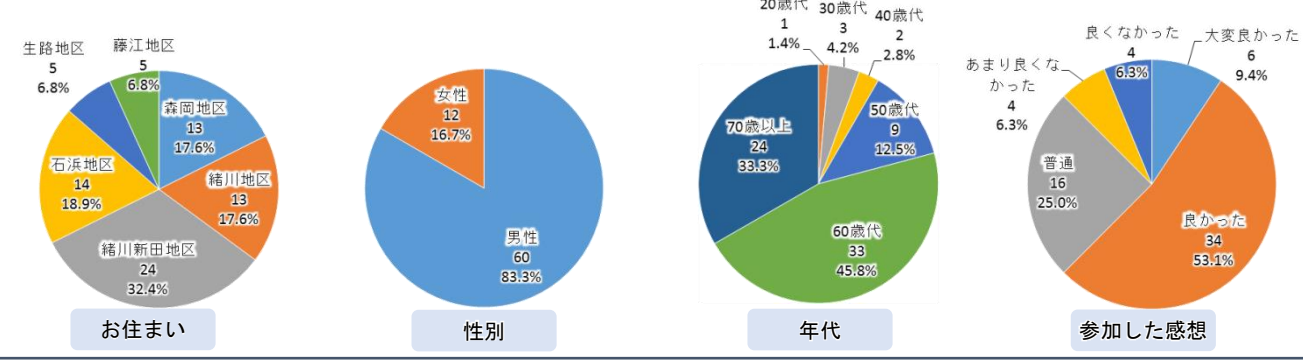
7/29(日) 森岡地区

**グローバル社会に対応できる特性を活かした取組が必要では！**

**地域の活動に参加しやすくなるような仕組みづくりを町に支援してほしい！**

**地域の一部の人への負担ではなく住民全員が協力できるようになるといい！**

～参加者アンケートより～



# ～ 緒川新田地区 ～



【開催概要】日時：7月21日(土) 13:30～15:00 場所：卯ノ里コミュニティセンター 参加者数：29名

	意見等の概要	回答
基本構想について	東浦町に入ってくる人口と出ていく人口の傾向を示してもらえると良いと思う。人口減少とは自然増減のことか、社会増減のことか。	社会増減で考えている。自然増減は合計特殊出生率による。第5次総合計画でも社会増による人口増を想定していた。
	第5次総合計画で人口が増えると想定していたがそうではなかった。第6次総合計画は20年の計画期間で、5,000人減るといのは大きな変化である。10年でも大きな変化があったのに次の計画を20年にするというのはどのような考えか。	基本構想の20年という設定は高齢者の増加と人口減少が20年続くということを見込んでいた。基本構想を踏まえた具体的な基本計画については、第5次総合計画の10年間から5年間にし、より短い間隔で対応できるようにしている。
	「誰もがイメージできる総合計画」というのは、どの項目が該当するのか。絆というのはテーマである。具体的な方向性がどれかわからない。	本日の資料においては具体的な施策については示していない。ホームページに審議会資料として案を掲載している。部門別計画にて分野ごとに住民、事業者、行政の役割を示した内容となっている。第3回審議会の資料「部門別計画」を参照いただきたい。
基本計画について	人口減少・高齢化で東浦町はどうなるかということについて多様なデータを分析し、今後の動向を推測することをベースとした基本計画として欲しい。一般論でなく東浦町独自の現状分析が必要である。	審議会でも同様の意見は頂いている。行政としてデータは多く持っているが、分析に弱い部分はある。今後、うまく活用・分析しながら進めていきたい。データについては公開し、住民のみなさんにも活用していただけるようにしたい。
	東浦町の少子高齢化は既に進行している。現在行っていることは何か。	現在は第5次総合計画に基づいた施策を行っている。第5次総合計画の5つの施策の柱により健康づくり、子育て支援、学校教育などに取り組んでいる。第6次総合計画については5つの施策の柱により第1期の5年間進めていく。基本構想は20年後の姿を見据えている。4期に分けた基本計画を進める。
	東浦町を環境を守るためメガソーラーの問題に関わっているが、自然を守る仕組みが十分ではないのではないかと感じる。自然を守り、住民の生活を守る条例を作って欲しい。周囲の自治体が自然を守る厳しい条例を作っていたら、東浦町に来てしまうのではないかと。	総合計画の審議会においても環境問題についての指摘がされている。仕組みづくりが課題となるため、住民のみなさんからアイデアをいただきたいと思う。
	東京、大阪、名古屋圏は人口が増えているが周辺の田舎は人口が減っている。都会は便利だから人が集まる。東浦町に人が集まらないのは女性に人気がないのではないかと。教育・子育て等の面で東海市は女性に人気がある。ロコミでそうしたことが広まって人が集まっているのではないかと。東浦町にメリッを今後考えて欲しい。財源は厳しいと思うが、女性の意見を取り入れて考えて欲しい。	東浦町も同時入所は保育料無料、医療費無料など、子育て支援には力を入れてきた。しかし、それが母親同士に浸透しているかについては周知が不足している部分もあると思う。情報発信を大事にしていきたい。
その他	子育て支援について、同時入所無料というのは限られた人への支援に感じる。それを支援として捉えられない。医療費も無料ではなく少しは払っても良いと思う。近い年齢でたくさん産んだ方が得になる仕組みとなっているが、様々な事情で難しい家庭もある。全体的に保育料を下げてもらった方が子育て支援になるのではないかと。	同時入所無料については今年度から見直ししている。これまで子育て支援という親への支援をしていたが、子どもの目線で「子ども支援」を今後は進めていきたいと考えている。保育園に通っていない人が不利にならないようにサービスを考えることが課題と感じている。
	少子高齢化の根本原因は生物学的なものであるという説と社会的なものであるという説がある。東浦町としてはどちらを原因ととらえているか。	ライフスタイルの多様化・合計特殊出生率の低下が原因として捉えている。
	タウンミーティングでは個々の施策よりも方向性を議論するべきである。1回のミーティングですべて議論するのは難しい。行政と住民が対話できるように。ステップに応じてこうした場を設けて欲しい。	対峙するのではなく対話していくまちづくりが重要だと感じている。今後の個別の計画策定においても住民の方の意見を伺いたいと考えている。
その他	第5次総合計画には策定体制が記載されていた。庁内体制ということで第5次総合計画では策定委員会、策定部会、作業部会はあるが、第6次総合計画も第5次総合計画のような体制を示すものがあつた方がよい。	本日の資料では示していないが、組織としては全役場の職員が進めている。パブリックコメントでは基本構想・基本計画の案を出す予定であり、策定組織については出さない。要綱を昨年策定し、要綱に基づき各作業部会、策定部会等にて検討している。審議会は条例に基づき設置するものであり、職員の体制とは別である。
	町長政策推進計画でまちづくり(自治)基本条例の制定が書かれている。自治の仕組みを整える自治体の憲法と書かれている。今の状況はどうなっているのか。また、この条例について参考となる自治体はあるか。	まちづくり(自治)基本条例は、住民主体のまちづくりを進める中で行政と住民の役割分担をして自治の仕組みを規定するものである。条例は作ればよいものではなく、みんなで作らなければうまく機能しない。仕組みを整えてから条例で固めたい。条例は自治ができる体制を作って条例という文書として残すものである。現在は自治の熟度を高めている段階であり、今年度は総合計画策定を優先させ、様子を見ながら今後作り上げていきたい。先進的なのは多治見市、県内では日進市など。